

自転車について思うこと

(特非) シビル NPO 連携プラットフォーム 理事
(一社) 建設コンサルタンツ協会 顧問

木谷 信之



近年、我が家の周辺が、再開発によって両側自歩道の2車線道路が整備され、オフィスビル、マンションが立地した。ゆとりのある街並みが形成されたのだが、街を歩いていて、自転車が怖くて仕方がない。

最近の自転車は、昔と比べて相当性能が向上した。走行音がなく、大半が電動アシスト付きで坂道も苦にせず、速く、また、15~30Kgと重く、車輪が小さく低重心になっている。相当なスピードで音もなく近づいてきて、わずかな間隔ですり抜けていく。

自転車は車両であり車道通行が大原則であるにもかかわらず、車道が怖いから歩行者をおしのけて歩道を通るかと思えば、赤信号になると車道を通行するなど、好きな場所を通行しているように思う。

このため、全体の交通事故件数が減少しているにもかかわらず、自転車対歩行者の交通事故は年間2500~2900件で推移しており、死亡事故に至る場合もある。

自転車が多様化し、種々の目的に応じた自転車が開発されている。幼児同乗用自転車が多く見られるが、母親が子供を連れて買い物に行くときなど、極めて有効な交通手段である。

このため、自転車をもっと有効に活用するため、種々の取り組みが行われている。

国土交通省道路局では、「安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会」を設置し、「『自転車ネットワーク計画策定の早期進展』と『安全な自転車通行空間の早期確保』に向けた提言」を、昨年3月にとりまとめた。

また、先の臨時国会で自転車活用推進法が制定され、ますます、積極的な取り組みが必要になってきている。

さらに自転車だけでなく、移動支援ロボット、シニアカー、2人乗り小型モビリティなど、新たなモビリティが開発されてきている。また、最近社会実験が始まった自動運転の車両なども、開発が進んでいる。このようなモビリティは、安全で快適なまちづくりに欠かせない。

このような新たなモビリティと歩行者の双方が安全に通行でき、住みやすい街を形成していくためには、国が作成したガイドラインなどの基準の見直しを行うだけでなく、課題を抱える関係行政機関と地域住民がともに意識の向上を図ることが必要であり、NPO等の積極的な活躍が期待される分野だと思う。

